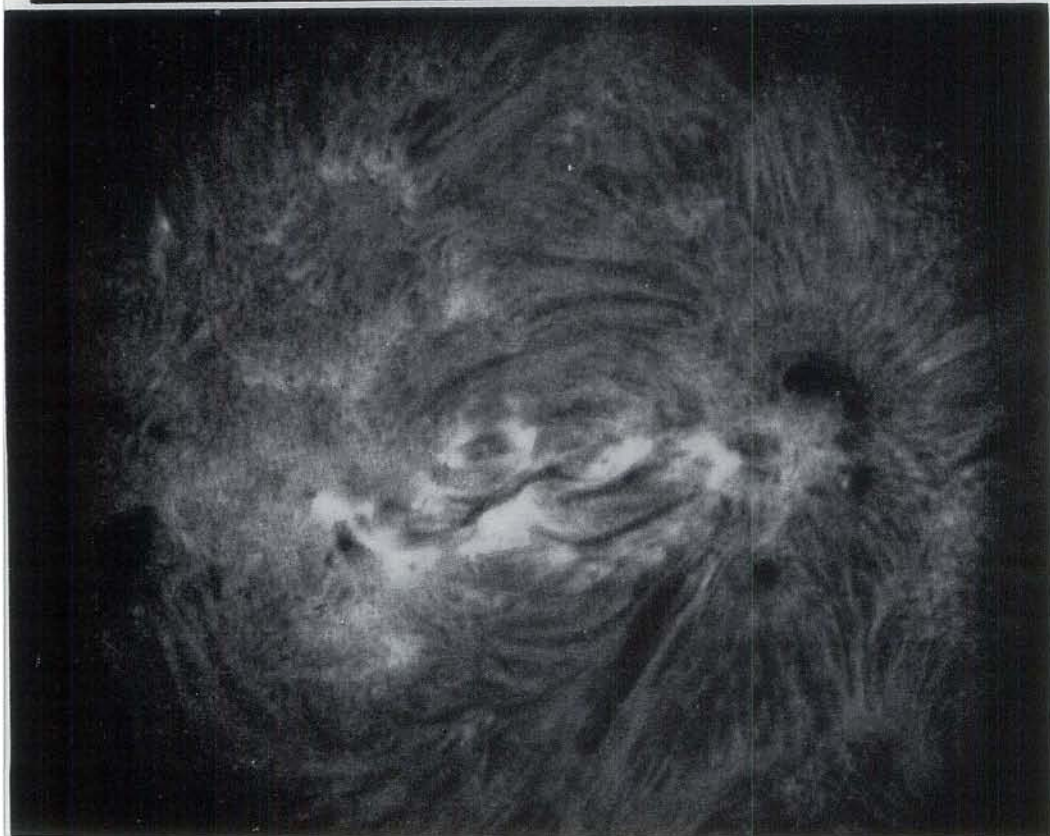


ファブリペロー



飛騨天文台において、15cm 屈折望遠鏡 (60cm 反射の案内鏡) に透過半値幅 0.6 Å のファブリペローエタロン製の H_{α} フィルターを取り付けて撮影したものである。使用フィルムはコダック SO 392 で、フィルム上の太陽像直径は 110mm である。いずれも H_{α} 線中心で撮影されている。

◀太陽縁近くの活動領域 (1975年8月5日11時11分) 太陽の縁 (写真上方) 近くでは fibril, thread, filament 等の黒い線状の模様がやや立体的に見えてくる。露出は 1/15 秒。



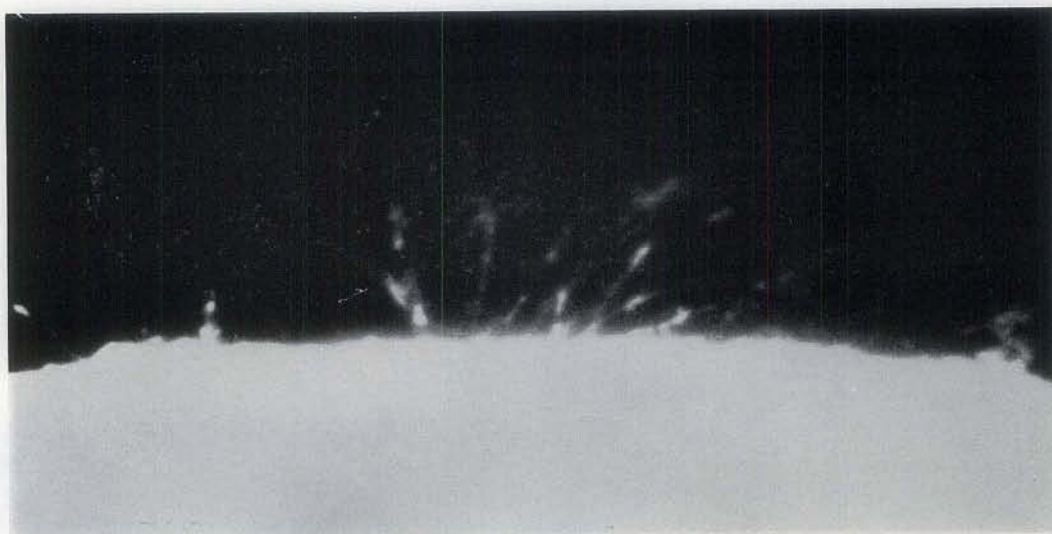
◀太陽中心付近での活動領域 (1975年8月11日6時59分) 露出は 1/15 秒。

H α フィルターで撮影した太陽の活動領域

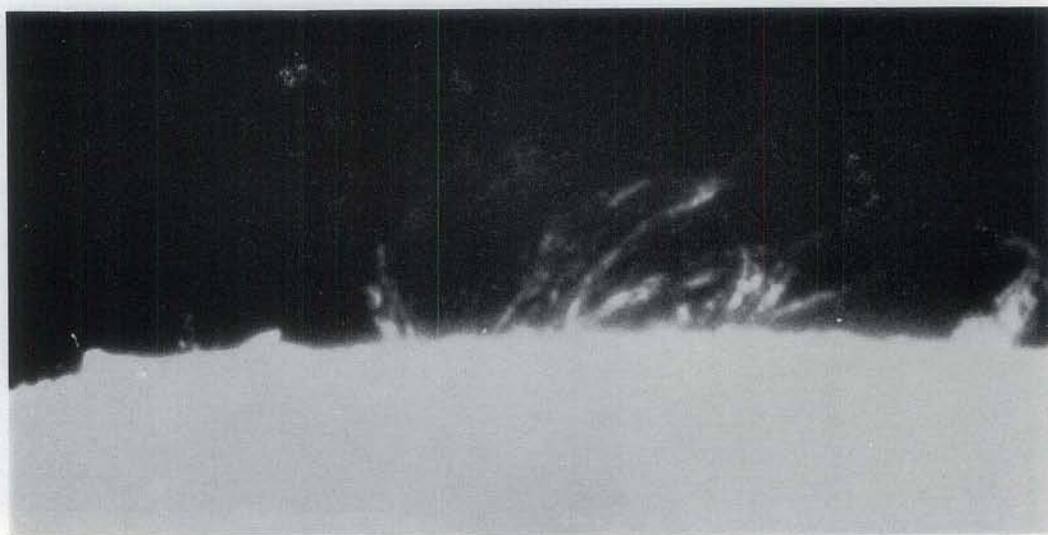
(本文 115 頁参照)

太陽縁上の活動領域 (1975
年 8 月 12 日)

A: 9 時 58 分 07 秒 ▶

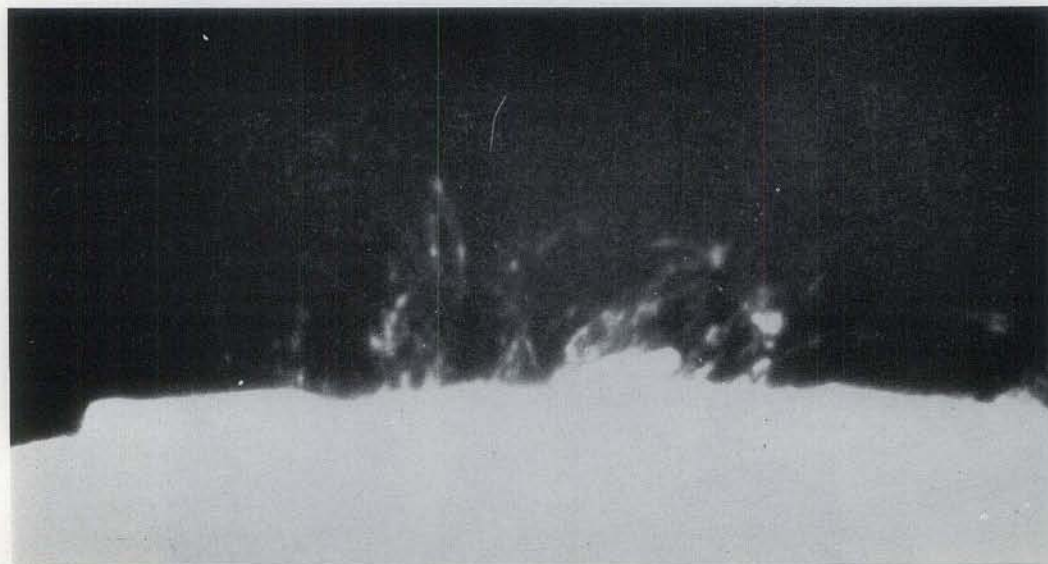


B: 11 時 12 分 50 秒 ▶



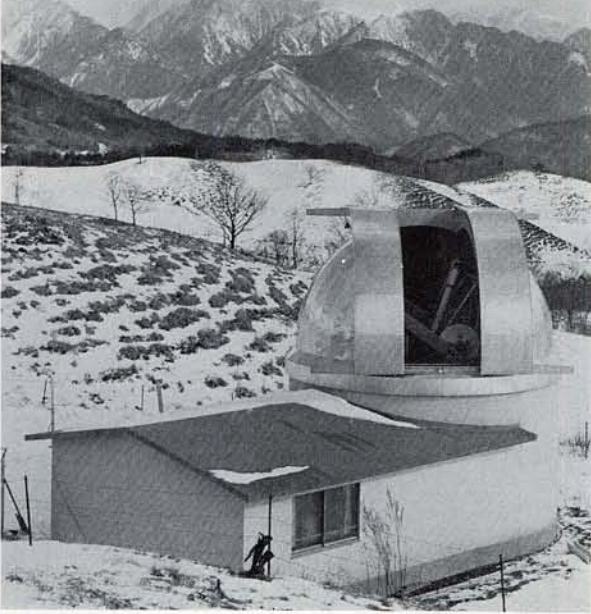
C: 14 時 08 分 55 秒 ▶
(コロナルレインループ
の変化)

活動領域が丁度縁上にやっ
て来ると、コロナルレイン
プロミネンスが観測され
る。これらは普通のプロミ
ネンスより約一桁暗いが、
飛騨天文台のように透明度
の良い場所では写真のよ
うに無数のコロナルレイン
が、ループ状にシャワーの
如く降り注ぐ様子が観測さ
れる。いずれも 1 秒露出。



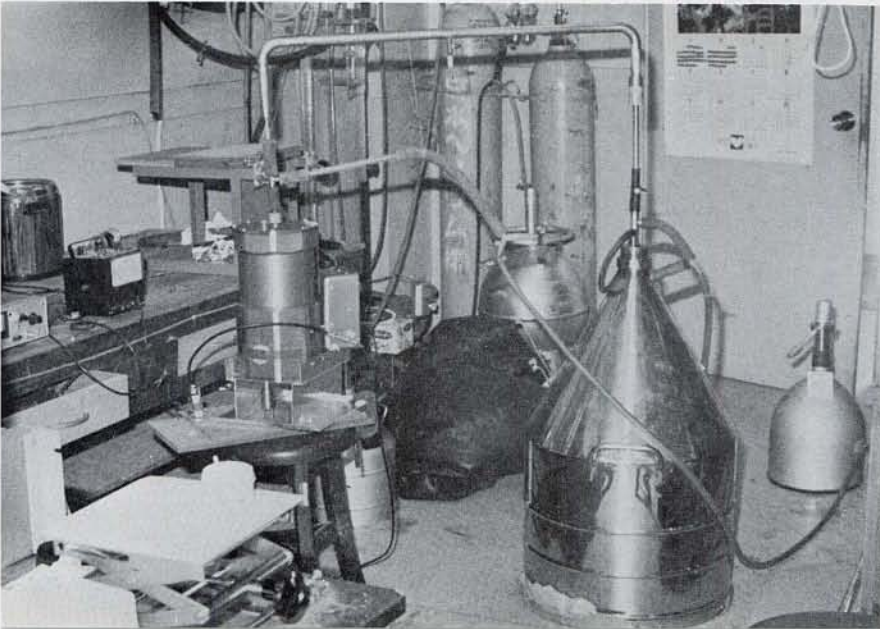
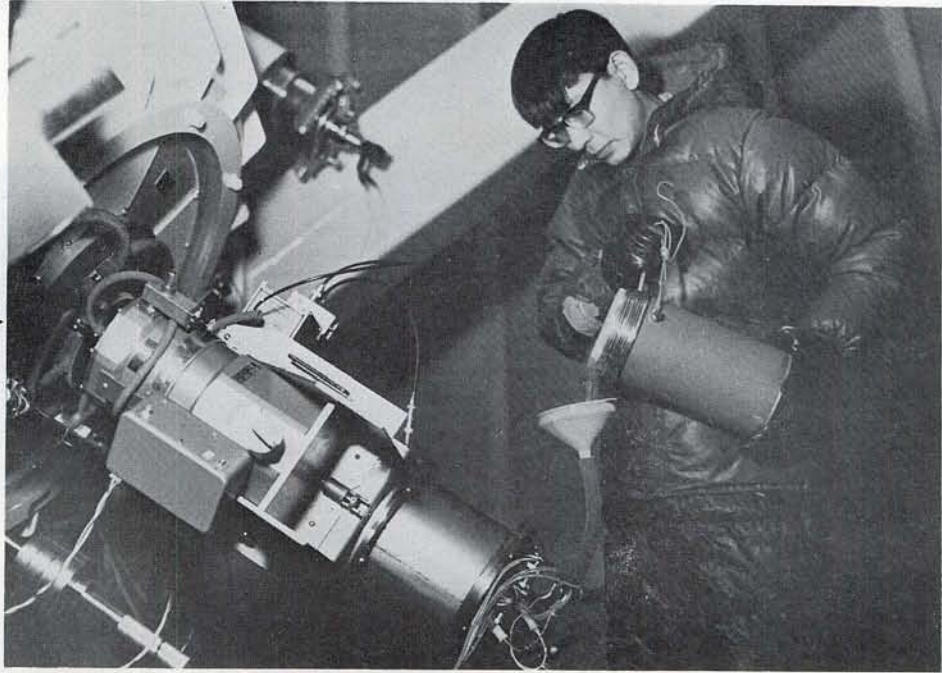
上松だより

(本文 118 頁参照)



◀ 京都大学上松赤外観測室全景

赤外検出器部分 ▶



◀ 液体ヘリウム・窒素の移送装置